

令和 6 年度

丹波篠山黒豆情報

第 2 号

令和 6 年 8 月 28 日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

＊丹波篠山市内 6 カ所に調査定点を設置しています。

【生育】（令和 6 年 8 月 23 日 丹波篠山市定点調査結果より）

	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)
令和 6 年	71.4	19.1
平年(過去 10 カ年平均)	69.4	17.6
平年比	103%	109%
令和 5 年(参考)	65.0	17.8

- ・ 定点ほ場 6 カ所の、主茎長は平年（過去 10 カ年平均）比 103%、主茎節数は平年比 109%と平年より早い生育となっています。
- ・ 梅雨明け後は、高温少雨・多照傾向で推移し、やや生育が停滞していましたが、畝間かん水作業等によって、平年より早い生育となっています。

【病害虫】（令和 6 年 8 月 23 日丹波篠山市定点調査結果より）

	立枯性病害	ウイルス病	ハスモンヨトウ	カメムシ類	アブラムシ類	ハダニ類
	株率 (%)	株率 (%)	虫数/株	虫数/株	頭/小葉	頭/小葉
令和 6 年	0	2.50	0.05	0.05	0.00	0.11
平年(過去 10 カ年平均)	2.97	6.00	0.15	0.03	0.01	0.38
平年比	0%	42%	34%	156%	0%	29%
令和 5 年(参考値)	1.00	1.67	0.05	0.03	0.00	0.07

- ・ 立枯性病害（茎疫病、白絹病など）の発生は平年より少ないです。
- ・ その他の病害では、一部のほ場でウイルス病、べと病の発生がみられます。
- ・ カメムシ類、フタスジヒメハムシ、その他チョウ目害虫の発生が一部のほ場で見られます。
- ・ 一部のほ場でハダニ類の発生が見られます。
- ・ ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、増加傾向で推移しており、一部の地域では、8 月中旬から 1 週間の誘引数が 100 頭を超えています。

【今後の対策】

1 立枯性病害（茎疫病）対策

- ① 茎疫病など立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。
- ② 今後、茎疫病の発生拡大が懸念されます。予防防除を主体に、定期防除に努め、薬剤が株元に十分かかるように心がけましょう。

2 害虫対策

- ① 平年に比べて発生が少ない状況ですが、ほ場により発生程度に差が見られます。特に、カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは、着莢期・莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、定期的な薬剤防除を徹底しましょう。
- ② ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は一部の地域で増加しています。食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去し、薬剤防除を実施しましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、
必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 台風通過後の栽培管理

- ① 停滞水がある場合は、排水溝や排水口の整備を行い、早急には場の排水を図ってください。（湿害や茎疫病等の立枯性病害）
- ② 枝折れした傷口や、株の倒伏で泥のついたところから、病原菌が侵入しやすくなります。風雨で茎葉がもまれた場合は、殺菌剤の散布を行い、斑点細菌病、紫斑病などの病気予防に努めてください。（防除薬剤）Zボルドー（水和剤） 500倍
- ③ 不用意には場に入ると枝折れを助長するので注意ください。
- ④ 倒伏した株は、無理に起こさないでください。
- ⑤ しおれた株や枯死株は抜き取りを行い、ほ場外へ持ち出し処分してください。

【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

